

企画講座

伊勢国司北畠氏の歴史④

講 師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第4回目。今回は石水博物館所蔵の「北畠氏奉行人奉書」を読みながら、応永・正長の二度にわたる北畠満雅の乱について考えてみます。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!

日 時 3月7日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

鉄道の旅(時刻表)を楽しむ

講 師 浅野目 政夫 暮らしの達人

鉄道に乗ってどこかに行こうとは、もう思わないという人が大多数になりました。車だとドア・ツードアでなんでも持ってゆけるし、服装も時間も気にしなくていいし、ホント便利ですよ。しかし皆様、どこかに鉄道に対する郷愁というか、どこか遠くに運んでくれる期待というか、そんなものがあるませんか？今回は鉄道オタクの浅野目さんが、知ってしまえば簡単な鉄道利用法を懇切丁寧に教えてくれます。まず時刻表からひも解いてみましょう。シルバー世代の方には少々ハードルが高いかも(?)、細かい数字が並んでいますのでルーベをご用意していただいた方がいいでしょう。でもこの中にはいろいろな情報満載されていてまるで宝の山のよう。一度知ってしまえば、次から次へと興味がわいてきて、旅する気分にワクワク感がとまりません！まずは鉄道ファンならずとも旅人氣分で紙面での鉄道旅の楽しさを伺い、実際に鉄道紀行を満喫してみましょう。さあ、新たな旅の始まりです。

日 時 3月14日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(時刻表付き)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名 ※時刻表をお持ちの方はお知らせください。

桑名の刀工・村正

講 師 杉本 竜 桑名市博物館館長

「妖刀」伝説で知られる村正は、15世紀から16世紀にかけて伊勢桑名で活躍した刀鍛冶です。徳川家康の祖父・父・本人・息子が村正で怪我をしたり、殺されたりしたということから、「徳川家に祟る」という「妖刀」伝説が生まれました。そのため、江戸時代には忌み嫌われ、芝居や物語のなかでネガティブなイメージで紹介されてきました。残念ながらいまだにそうしたイメージは色濃く、村正にとっては不本意な時代が続いていると思います。そこで今回は、村正という刀工に史料・作品面から改めてスポットをあて、少しでも真実の姿に近づければ、と思います。あわせて、桑名市博物館で開催しております「刀剣幻想曲・再演」の見所も紹介いたします。

日 時 3月16日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

伊勢紵刺しに挑戦～伝統のししゅうで作るがま口～

講 師 西川 左恵子 伊勢紵刺し 彩いち 主宰

紵刺しの日本における正確な起源は不明ですが、奈良時代に東大寺の仏像の敷物として献上されたとする記録が残っています。紵刺しとは木枠に張った紵布の織目の隙間に1段または数段ずつ様々な色の糸糸や金糸、うるし糸等を刺して模様を表す技法です。描かれた古典的で優雅な色彩を持つ図柄や日本古来の伝統模様は、帯・着物・小物入れ・袋物などに用いられています。また紵刺しの基本要素である古典的な模様に加えて、現代の感覚で創案した作品や、伊勢志摩地方伝統の海女文化である貝紫染の糸糸を刺し、経年変化を楽しむオジジナルの図案の開発、新しい紵刺し作品への取り組みを伊勢紵刺しと名付けています。今回は7cm×1.5cm四方に紵刺しを施し、指輪やピアスなどを入れる小さながま口を作成します。※大変細かい作業です。お持ちの方は拡大鏡・はさみ等をご用意ください。

日 時 3月23日(水) 13:30～15:30・4月13日(水) 13:30～15:30 ※この講座は3/23と4/13の2回シリーズとなります。
参加費(2回分) 会員 3,300円 ビジター 3,800円(材料費含む) 場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 12名限定

春の花を生ける

講 師 竹澤 幸甫 嵯峨御流正教授

春こそ花の季節ですよ。どちらを向いても可愛い花が一杯で幸せも一杯。今回はそんな春の花々を独自の感性で生けて、家の中まで春を取り込もうという講座です。どんな花を生けるのかを知りたいのは山々ですが、実を言いますと実際に咲いている花と花屋さんが用意できる花にはギャップがあって、どうもその時期より先のものになるらしいのです。花屋さんもその時にならないと何があるかわからないという状態ですが、それだけに期待が高まります。楽しみは先に伸びるほど大きいといえますから、一緒に待ちましょう。(花包み・花切り鉄・タオルなどをもちくください) ※材料準備の都合により、3/29に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日 時 4月5日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 3,600円 ビジター 4,100円(花材費含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名

和紅茶を楽しむ

講 師 松本 浩 NPO法人「日本cha茶ちや」代表理事

「和紅茶」とは、日本国内で生産される紅茶で「地紅茶」とも呼ばれています。実は140年前の明治初期から日本ではすでに紅茶が作られていました。ここ三重県でも紅茶の栽培や加工が盛んに行われ、海外へと運ばれていきました。そんな三重県産紅茶について歴史をたどり、作り方などを学び、飲み比べをします。萬古急須で淹れる三重県産紅茶をお茶請けとともに味わいながら、香り豊かなひとときを楽しみましょう。

日 時 4月7日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(茶菓代含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名

漢字の旅「麗・寒・明・酒」～高先生に学ぶ漢字は面白い～

講 師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古いの結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。

私たちが日々使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。

今回、注目するのは、「麗・寒・明・酒」。「三月三日 天気新たに、長安の水辺 麗人多し」と、楊貴妃姉妹の

豪華な春遊ぶりを描いた杜甫の詩があります。文字の歴史を辿りながら、この季節の唐代の風俗習慣や「酒」の

始まりの伝説を紹介します。そして甲骨文・金文の書き方も教えていただきますよ。

日 時 4月12日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名



「おぼろよう」「朧夜香」を楽しむ

講 師 東 堯霞 香道御家流三條西宗家直門師範

「照りもせず 曇りもたてぬ 春の夜の 朧月夜に しくものぞなき」 新古今集 大江千里 (さやかに照るのでもなく、といって全く曇ってしまうのでもない、春の夜のおぼろにかすむ月の美しさに及ぶものはない) 春の夜に月がまのかに霞んでいる情景が目に見えて、日本人の美的情感のきめ細やかさを感じます。今回は春の夜に「霞」は真那賀、「花」は羅国、「月」は佐曾羅、の香りを聞き、「朧月夜」を楽しみましょう。香木の種類は7種類、伽羅・羅国・真南蛮・真那賀・佐曾羅・寸門多羅・新伽羅。産地や最初に渡来した国などから分類したもので、香十徳といって十の徳がもたらされます。心ときめき香りが誘う空間の中で、心身ともに安らぐ静かなひと時を過ごしてみませんか。香りで表現された主題を鑑賞し、その世界に遊ぶことが香道の醍醐味なのです。(筆記用具をお持ちください)

日 時 4月12日(火) 18:30～20:30 参加費 会員 5,400円 ビジター 5,900円(香庭料・食事代・お菓子代含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

伊勢西国三十三所巡り～もう一つのお伊勢参り～⑤

講 師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

三十三所のお話5回目となりました。今回は四日市市、菰野町を中心としたエリアです。注目は菰野町にある尾高観音堂、尾高高原の麓にあり、1300年ほど前の創建と伝わります。御本尊は高さ1.7メートルの木像千手観音菩薩、なんと聖徳太子の作と伝えられています。そののち尾高山引接寺として、桓武天皇の篤い信仰を得たり、中世には藤原氏の支援で豪壮な七堂伽藍が建設されましたが、戦国時代信長軍によって破壊され、江戸時代は桑名藩の支配を受けました。明治になって廃仏毀釈の影響を受け、以後檀家の方々の熱意によって守られてきました。現在残っている本堂は六角型で屋根の頂に宝珠が載っています。御本尊は秘仏で年1回御開帳されます。長い参道には樹齢300年の松の巨木が立ち並び、ひっそりとはしていますが清々しい場所で地元の人たちによってよく手入れがされています。千種先生はここで何を感じられたのでしょうか。

日 時 4月14日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

ことわざは暮らしの羅針盤

五十鈴塾事務局

「風が吹けば桶屋が儲かる」桶屋って何？、「無い袖は振れない」袖を振るってどういうこと？ 昔のことわざでもう通じなくなっているのでは？

と不安になった事務局がさて、みなさんどれだけことわざを知っているかしらるか、一度講座で確かめてみたいと企画しました。

「その手は桑名の焼き蛤」「関の山」など三重県由来のことわざもあります。漁場では豊漁や不漁を占うことわざも各地にあります。

そんなことわざについて皆さんの知恵や知識を披露してみませんか？ 誰が生徒か先生かわからない状態で、わいわいがやがや喋ってみましょう。

きっと面白いことわざが出てくることでしょう。これは後ほどまとめて資料として保存したいですね。

日 時 4月18日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 700円 ビジター 1,200円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

近代伊勢を創った人々～度会郷友会と雑誌『度会』～

講 師 太田 未帆 元伊勢市総務部総務課市史編さん係嘱託

度会郷友会とは、現在の都道府県人会のような団体です。明治27年に伊勢出身の上京学生らが中心となって結成されました。会員には、政治家の尾崎行雄や浜田国松、実業家の太田小三郎や太田光熙、映画監督の小津安二郎など、伊勢ゆかりの著名な人物が名を連ねています。会の活動は、戦火が激し化する昭和19年に途絶えてしまいますが、結成から50年の間に会誌である『度会』という雑誌を466号も発行しました。この雑誌からは、会員の動静や交流、郷土伊勢の出来事など、多くの情報を知ることができます。本講座では、明治・大正・昭和という激動の時代を生きた郷土の人々の姿を、度会郷友会の活動を通して見ていきます。

日 時 4月19日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

倭姫命の御巡行地を訪ねて その2

講 師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

延暦23年(804)撰述の『皇太神宮儀式帳』によれば、天照大御神を戴いた倭姫命が、美和の御室宮を出発されて、はじめておとどまりになったところが阿貴宮です。平安時代後期、内宮御宜家荒木神社の家伝書とされる「太神宮諸雜事記」には阿貴宮が皇大御神の「はじめて天降り坐す本所」として特筆されており、古来このお宮が殊に尊崇されてきた由緒を物語っています。次に佐々波多宮について、書紀垂仁天皇二十五年三月条によれば、倭姫命はまず「大神を鎮め坐させも処を求めて、菟田の筱幡に詣る」と記され、その後は御巡行された国々として近江・美濃・伊勢の名が見えますが、その国内のどこに宮を定められたかは書かれていません。ただ「筱幡」だけが地点として明示されています。何故でしょうか。いよいよ大和国を離れる最後の地点であるから特筆されたのでしょうか。いずれにしても筱幡は、書紀が掲載する御巡行のルートの中で唯一挙げられた地名です。今回は阿貴宮と佐々波多宮の比定地を中心に、また何故書紀には伊賀の名が無いのかも解説します。

日 時 4月22日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

太神宮は男神様？～異端の天照大御神男体観～

講 師 多田 實道 皇學館大学文学部教授、曹洞宗神照山廣泰寺住職、博士(文学)

タイトルを見てギョッとされた方も多いと思いますが、天照大御神男神説がまことしやかに流布された時代がありました。世界の神話を見てみると太陽を男神とするのはエジプト、ギリシャ、インカ、ヒンドゥー、女神とするのはエジプト、イスラエル、仏教、中国などが主なところまで。国によっては男神でも女神でもあるのです。では我が国はというと女神であられることは「日本書紀」以来のいわば常識です。ところが中世になったと実は男神様ではないかという俗説が登場してきたのです。それによりもかくの如き異端ともいうべき俗説が何時頃どのようにして成立して巷に浸透していったのか皆さんと共に検証してみたいです。

日 時 5月10日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

初夏を彩るハンギングバスケット

講 師 山路 元彦 ヤマジ園芸代表取締役・グリーンアドバイザー

ハンギングバスケットとは植物を植えて吊り下げたり、掛けたりできる花鉢のことで、ガーデンスペースが限られている場合などは空間を有効利用して楽しむことができます。この時期の花材はペゴニアやマーガレット、ペチュニアなどがあります。なかでも代表的なペチュニアは八重咲、一重咲きなど多種多様で、花色はピンク、赤、白、紫など豊富にあり、開花期間は長く約半年もあります。いつもバスケットに入るのかと思うくらいたくさんのお花を用意して下さるのですが、先生の指導の通りにお花を入れていくと、すべてきれいに納まり、ボリュームのある素敵なハンギングバスケットが出来上がりです。一度ハンギングバスケットを作ってみるとその楽しさとかわいいうち来栄えに大満足です。(材料の内容は変更する場合があります。園芸用手袋、エプロン、タオルなどをお持ちください) ※材料準備の都合により、5/4に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日 時 5月11日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 4,400円 ビジター 4,900円(材料費含む)
(ハンギングバスケット用の容器・スポンジをお持ちの方は参加費が800円、また容器のみお持ちの方は500円安くなります)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名限定

春の星見と最近の宇宙事情パート2

講 師 野田 学 名古屋市科学館学芸課天文主幹

昨年の春の講座では最近の宇宙開発や月・火星探査の話でしたが、その後の半年ほどの間に、民間企業の宇宙船が次々と試験飛行を成功させました。日本人の実業家、前澤友作さんも2021年12月に日本の民間人初の国際宇宙ステーション滞在を果たしており、宇宙飛行士ではなく一般人の宇宙旅行がにわかに現実味を帯びてきました。現在、宇宙飛行の最高齢記録は90歳。私達も生きている間に宇宙を体験できるでしょうか？

日 時 5月11日(火) 18:30～20:30 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円(お菓子付き)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名 ※お菓子は講座にに合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です。

日本の神話～古事記を中心として～

講 師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

2月11日は建国記念の日、神武天皇が即位された日です。あまりに遠い昔なのでピンと来ませんが、それ以来代々の天皇のもと日本の国は続いてきましたが実は神武天皇も実在の人物なのか定かではありません。その時代のこと古事記や日本書紀に伝えられてきたことで神様と人との境があやふやなのです。天皇家の祖先は伊勢神宮にお祀りされている天照大御神とされています。神話の中で大きな存在ですが、今や「アマテラスって誰？」という程度にしか知られていませんし、スサノオやオオクニヌシにいたっては聞いたこともないというのが実情です。しかし中世になって福の神だからです。これでいいのでしょうか？日本の国の成り立ちに深く関係する神様方のことを知らずして日本の歴史が語れるのでしょうか？日本文化再発見を目指す五十鈴塾としてはぜひ皆様に日本の神話を知っていただきたいと山中先生にお願いしてシリーズで企画しました。先生のお話は隣に神様が棲んでいるかのようなとても人間味あふれるお話です。

日 時 5月18日(水) 18:30～20:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

織田政権末期の三重～本能寺の変の頃～

講 師 太田 光俊 三重県総合博物館学芸員・博士(文学)

本能寺の変は、歴史好きの人びとをとらえてやまない大事件です。大事件ゆえに、連動して当時の三重県域でもさまざまな動きがありました。徳川家康の伊賀越えの逃避行はあまりにも有名ですが、それ以外にも多気町付近で起こった北畠氏の末裔の反乱が特筆されます。なお、神宮では会員選考が準備されている時期です。織田政権から豊臣政権に移行する直前の三重県域の様子をひもときます。

日 時 5月23日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

陶芸を楽しむ

講 師 村上 光男 陶芸家

ロクロを回して器を作ってゆく格好をみていて、ちょっとやって見たくなりますよね。そんな方にうってつけの講座をご用意しました。作り方はいろいろで、土を平たく伸ばして作りたい形のパーツを作っていくつづける方法、そも状にして積み上げてゆく方法、かたまりからロクロで伸ばしてゆく方法など自分に合ったやり方で作れます。ヘラですじをつけたり、ハンコで模様をつけたり、焼成時には先生が砕いた色ガラスを入れたりバリエーションも豊かです。ガラスを入れるのは今回がはじめて、色は青が緑になります。材料的に1～2作品ができますので違ったテイストのものに挑戦するのもいいですね。出来上がった作品は焼いた後に塾に取りにきていただく、着払いで送らせていただきます。(エプロンとタオルをお持ちください)

日 時 5月23日(金) 13:30～15:30 参加費 会員 2,900円 ビジター 3,400円(材料費含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 15名

楽しい俳句

講 師 石井 いさお 煌星俳句会主宰

わずかに17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに五・七・五になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が心を豊かにする俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてくださいます。

期 日 3月23日(水)・4月27日(水)・5月25日(水) 時 間 各回10:00～12:00 定 員 20名
参加費 各回 会員 1,600円 ビジター 2,100円 場 所 五十鈴塾右王舎

野外講座

高田本山の涅槃園と国宝を見る

五十鈴塾事務局

京都や奈良に匹敵するほどの国宝や重要文化財がたっぶりあるお寺が津にあるのは皆様ご存じですね。そう高田本山専修寺です。親鸞上人の木像を安置した御影堂は畳の数780畳というものすごさ、快慶作の国の重文、阿弥陀如来がおわす如来堂は華麗な造りに圧倒されます。御影堂と如来堂を結ぶ通天橋という渡り廊下も重文、正面の山門、左にある唐門も重文、鐘楼も重文など文化財のオンパレードです。これらを解説していただきながらじっくりと見てまいります。そしてこの時期を選んだのは、仏涅槃園が公開されその解説を聞くことができるからです。高さ5.5メートル、横4メートルという巨大な涅槃園は天井から吊るされ、美しい色彩と精緻な技で描かれた江戸時代後期の作です。宝台の上に金色に輝くお釈迦様、なぜ金色なのでしょう。宝台の後ろには白い沙羅双樹の木、緑ではなく白？ 嘆き悲しむ弟子たち、天からは摩耶夫人が雲に乗って駆け付けてきています。ありとあらゆる動物たちも争いもせず集まり、池には水鳥や魚たちまで描かれているのです。動物たちの様子を見ているだけでも発見が次々にあります。春彼岸の前にお寺に参ると、きっと良いことがありますよ。(歩きやすい服装で飲み物、おやつなどお持ちください)

日 時 3月17日(木) 9:45~13:00 参加費 会員 3,000円 ビジター 3,500円(昼食代・解説料含む)
集合場所 9:45に高田本山専修寺 唐門 集合 定 員 15名

吉野の枝垂れ桜三昧

五十鈴塾事務局

奈良県東吉野郡東吉野村の杉や檜に囲まれた山間、標高650mの丘に枝垂れ桜ばかり1000本が植えられた「天空の庭 高見の郷」があります。近年では吉野の千本桜と並ぶ人気ぶりです。一重や八重の桜の濃淡、雪柳の白、レンギョウの黄が華やかに彩り、少し登った「千年の丘」から見渡す様は山肌一面を桜が埋め尽くし見るものを虜にします。コロナウイルスと戦う日頃のストレス発散に、桜の園を散策しながらお花見しましょう。(歩きやすい服装で飲み物、おやつなどお持ちください)

日 時 4月15日(金) 9:00~15:30 参加費 会員 9,800円 ビジター 10,800円(バス代・昼食代・入場料・保険料含む)
集合場所 8:55に五十鈴川駅集合 定 員 15名

丹生大師とフルーツトマト狩り～ガイドと丹生の町を歩く～

五十鈴塾事務局

地元再発見、丹生の町に息づく歴史と農業を学ぶ講座です。まずはこの地でとれる野菜や山菜をつかった料理で人気の「せいわの里まめや」で昼食。地産地消を味わいましょう。その後、観光ボランティアガイドさんとともに丹生大師として親しまれる女人高野丹生山「神宮寺成就院」を訪れ、400年ぶりに修復された仁王門、大師堂、本堂などを見学し、丹生の歴史を聞きながら町を歩きます。最後は、環境配慮型の農業で高品質野菜の生産をしているボモナファームでトマト狩り。農場長から地元への思いや最先端技術のお話しをお聞きし、トマト狩りのスタート。品種は「プチおよ」というスーパーなどにはほとんど流通しない貴重なトマトで、極薄の皮、サクランボのような見た目、ぶちっと弾けるような食感の甘いトマトです。他ではなかなか味わえない、まるでフルーツのようなトマトの食べ放題&お土産つきを満喫しましょう。(歩きやすい服装で飲み物、おやつなどお持ちください)

日 時 4月26日(火) 11:00~15:30 参加費 会員 4,500円 ビジター 5,000円(昼食代・トマト狩り代・ガイド料・保険料含む)
集合場所 10:55までに「せいわの里 まめや」集合 定 員 15名

朝熊山に登ろう

講 師 松井 恒生 お伊勢さん観光ガイドの会

昨年天候不順で中止になりました朝熊山に再挑戦します。標高555メートルの朝熊山は正式には朝熊ヶ岳といえます。頂上付近には臨濟宗の金剛證寺があり、霊山として敬われてきました。亡くなった人が登る山とされ、また信仰の山としても親しまれ、伊勢方面からはもとより、鳥羽、志摩方面から何本もの登山道がついていましたが、現在では2~3本のみが利用されています。今回は最も短い距離で登りやすくわかりやすい朝熊岳道から登ります。かつて東洋一といわれたケーブルカーの跡や一町ごとにある町石など見所もあります。展望台で昼食を取って、下山は宇治岳道を通ります。昔バスが通っていた道は勾配が緩やかでその分時間はかかります。途中展望が素晴らしいところもありますので、めげずに歩きましょう。到着は神宮の神域内になります。

※集合場所と解散場所は違います。(歩きやすい服装でお弁当、飲み物、おやつなどお持ちください)

近鉄朝熊駅一登山口一朝熊峠展望台一八龍王社一経塚群一芭蕉句碑一金剛證寺一昼食(展望台)一宇治岳道

日 時 5月24日(火) 8:30~16:00 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(登山保険料含む)
集合場所 8:25までに近鉄 朝熊駅集合 定 員 15名限定

特別企画講座

五十鈴塾塾長

神崎宣武 特別講座

神崎 宣武

民俗学者・神崎研究室室長

「絵巻物」を読む～「信貴山縁起」と「北野天神縁起」～

絵巻物から昔の人々の生き方や暮らしを知る講座の第2回、1回目は扇面古写経と餓鬼草紙でしたが、今回は信貴山縁起絵巻と北野天神縁起絵巻です。信貴山縁起は平安時代末期のもので国宝に指定されています。お話は信貴山中興の祖といわれる命蓮の霊験譚です。内容は倉が空を飛ぶ巻、醍醐天皇の病氣平癒の巻、尼公と命蓮の再開の巻の3つで、人物の躍動感あふれる様子が日本のマンガのルーツとも言われています。北野天神の方は鎌倉時代で作で菅原道真の栄華と左遷、怨霊による天変地異とそれを鎮めるための北野天満宮の創建を描いたものでこちらも国宝に指定されています。穏やかであった道真が怨霊と化して災いをもたらす場面の迫力、畏れ逃げ惑う貴族たちなどから読み取れるものは何でしょう。

日 時 3月29日(火) 18:30～20:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

『「日本」に出会う』シリーズ 第20回

五十鈴川河畔の桜

2年前の杉風荘にある見事な一本桜を愛でる講座は、コロナであえなく中止になりましたね。今度こそその願いを込めて再度チャレンジします。花見と言えば桜ですが、奈良時代は中国文化の影響で梅が珍重されていました。では桜はというと、桜は神聖な木とされていて、信仰の対象だったようです。ではなぜ桜は神聖な木だったのでしょうか？なぜ桜の木の下で、飲みや歌へのどんちゃん騒ぎをするのでしょうか？これはもう民俗学者の神崎塾長にお伺いするほかないですね。すし久で桜ゆかりの膳を賞味し、五十鈴川河畔の桜を眺め、杉風荘でお話を聞いて、お茶とお菓子を賞味しながら一本桜を心ゆくまで鑑賞いたしましょう。

日 時 3月30日(水) 11:00～14:00 参加費 会員 4,000円 ビジター 4,500円(昼食・抹茶・お菓子付き)
集合場所 おはらい町通り食事処「すし久」(11:00に直接お集りください) 場 所 杉風荘 定 員 20名限定

聖地巡礼その4 ～粉河寺 娘の恋～

講 師

西山 克 京都教育大学名誉教授

粉河寺は和歌山県紀ノ川市にある西国三十三所第3番目のお寺です。山号は風猛山、草創は奈良時代と伝わります。

国宝である粉河寺縁起絵巻は寺の創建譚、前半の話は紀井国の獵師、大伴孔子古が観音の霊験にふれて仏道に入る決心をし庵をかまえ、そこにひとりの童子が現れ、宿を乞いその礼に7日間で千手観音像を彫り上げ堂に安置し姿を消したというもので、これを伝え聞いた人々がその仏像に深く帰依しました。後半は河内国の長者の一人娘の病がこの粉河寺の千手観音の霊験で癒える話となっています。

ではサブタイトルの「娘の恋」というのは、どういう意味なのでしょう？気にかかりますね。

日 時 4月6日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

木の建築とその実際

講 師

前田 伸治 一級建築士・暮らし十職一級建築士事務所代表

昨今、公共建築も含めて木の建築が見直されてきました。

身近な自然の恵みを用いて、私たちが必要なものを作り出すという、日本人としての自然観が、その背景になっているからかも知れません。

木の建築は、我が国にとって長い年月をかけて培われてきました。その意味では、自然をどのように生かすべきかを模索してきた歴史でもあり、その中で蓄えられた知恵の賜ものでもあります。木を材木屋さんから調達して作ることが一般的でしたが、山に生えている木を直接見て選別し、それを伐り倒して木取りをし、建築材として整えて建築を作るという、本来の木造建築に戻った作り方も増えてきました。そのためには木の素性を知り、長い年月をかけて育った木の命を、建築に移し替えることが求められます。

そのようにして作る建築の実際をご紹介します。

日 時 5月17日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

伊勢志摩の民俗信仰とオイヤレ

講 師

櫻井 治男 皇學館大学名誉教授

オイヤレとは「追い遣れ」、すなわち追放という意味です。

天照大神を困らせた須佐之男命が高天原から神ヤライされた神話は有名ですが、中国・四国地方には子育てを表すコヤライという言葉があり、子の親離れ、親の子離れの「遣らう」厳しさを示していると解されています。

「追放」とは何か、伊勢志摩地方で行われるオイヤレ・オヤレ行事の由縁から考えてみたいと思います。

日 時 5月20日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

山菜を味わう

講 師

西岡 宏起 相可高校食物調理科専門調理師教諭

毎回大好評の相可高校食物調理科の生徒さんたちの料理、今回は山菜を主としたものを考えていただきました。

山菜は早春のものと思いますが、初夏にもいろいろとあります。フキ、ワラビもまだありますし橙色の花が美しいヤブカンゾウも山菜の一種です。

花やつばみや若芽をおひたしにします。ツクサも葉や茎を食べ、花はサラダなどのトッピングにすると華やかです。

田んぼの畔などに生えて邪魔者扱いされるスベリヒユはハーブの一種として世界中で使われています。

あのドクダミも熱を加えると臭みが消えるので葉や根を煮たりいためたり、葉は天ぷらにもできます。

ベトナム料理ではハーブとして使われています。ドクダミは十薬といわれ、ビタミンやミネラルが豊富な優れた食材なのです。

耳寄りな山菜の利用法なども聞きながら舌に贅沢をさせましょう。

日 時 5月29日(日) 11:00～13:30 参加費 会員 3,500円 ビジター 4,000円(食事代含む)
場 所 五十鈴塾右王舎 定 員 20名

6ヶ月シリーズ講座	茶の湯 つれづれ噺	講師 浅沼 宗博	今日庵名誉師範正教授・ 皇学館大学現代日本社会学部特別招聘教授
茶の湯の精神や風炉の灰形、茶人の逸話、杉木普斎を中心とした伊勢の地の茶の湯、茶の湯釜の手入れの仕方等々から日常生活に生かされることがたくさんあります。みんなで考えてみましょう。(季節、進み具合など諸事情により講義内容を変更することがあります)			
◇4月～9月(6回講座) 各日 18:30～20:00 定員 20名			
4月21日(木)「風炉の灰形について」 ―二文字押切― 風炉の灰形は千利休に始まるといわれています。灰形の種類は真の鱗灰、行は二文字押切など六種類、草は二文字搔上等三種類です。それぞれの灰形の作り方について考えましょう。			
5月19日(木)「おもてなしの心」 ―一期一会― 一期一会とは「今に心を尽くすこと」だと思います。茶の湯の世界では、同じ人と何百回、何千回会いまえようとも、あたかも一生に一度の出会いのごとく、心を尽くすことです。今という時は二度とない。「今」に心を尽くし、充実して、会い別れること。これが「おもてなしの心」です。茶の湯のこころについて、みんなで考えましょう。			
6月16日(木)「茶人の逸話」 ―三炭三露― 逸話を学ぶことは「茶の心」など茶の湯の本質を知る上で非常に大切なことです。茶事をするときに、亭主と客が最初にすることは何でしょうか。亭主は、客を迎えるために、露地に水を打ち、手水鉢に水を入れることです。客も最初に使うのが、手水です。南方録では「三炭」「三露」の大切さを言っています。種々の逸話から茶の湯の本質について考えましょう。			
7月21日(木)「宗旦流の点前」 ―千家流の点前― 宗旦流の点前は、茶盃にお湯を入れるとき、一滴量に落とすのが定石でした。近衛家の侍医であった山科ノ道安が「塊記」の中で述べています。宗旦流の点前とは、どのようなものであったか、考えてみましょう。			
8月18日(木)「新都の茶の湯」 ―杉木普斎― 伊勢の地は、元禄時代御師であった杉木普斎が中心となり茶道最盛期となり、また、宝暦時代の「塵塚」によると、宝暦時代は、朝、昼、夜と日々ここかしこでお茶会が行われ、山田下之郷はわきにわいた、と書かれています。当時の伊勢の茶の湯について、考えてみましょう。			
9月15日(木)「茶の湯の釜について」 ―釜の手入れ― 芦屋釜、天明釜、京釜等釜の種類、釜の扱い方、拝見のポイント、季節と釜の関係等々、特に、釜の手入れの方法について、考えてみましょう。			
参加費 (6回分) 会員 5,700円 ビジター 8,700円			

6ヶ月シリーズ講座	茶の湯、初めての体験	講師 浅沼 宗博	今日庵名誉師範正教授・ 皇学館大学現代日本社会学部特別招聘教授
単にお茶を飲むだけの行為が芸術にまで高められた茶道、日本ならではと思いませんか？ 習ってみたいけど…難しい作法はあるし、着物は着られないしと尻込みをしてしまいがちですね。「少しは触れておきたい」「日本人として、正しいお作法を身につけたい」など、茶道を習いはじめるときは人によって様々ですが、始めてみると思っていた以上に楽しくなるのも茶道の極意です。大丈夫、浅沼先生がその人に合わせて優しく教えてください。			
生活にリズムをつけるためにも、ぜひ始めてみませんか？			
コロナウイルス感染防止対策のため、参加人数を制限させていただくか、申し込み状況によっては2班に分けさせていただきます。 茶巾は各自購入していただき、袱紗なども含め持ち物の貸し借りをせず、マイ茶巾をお使いいただくことになります。安心していただける新しいお稽古の在り方を検討しながら進めてまいりますので、講座推進については先生、スタッフの言葉に従っていただきますよう、お願いいたします。 安全を最優先として、細心の注意を図り、万全の態勢で臨みたいと思いますので、どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。 (茶巾を各自ご購入の上、袱紗など一式をお持ちください。また、先生のご都合により日時が変更になる場合がございます)			
◇4月～9月(6回講座) 各日 13:00～15:00 定員 16名限定			
4月23日(土)「日常に生かされる茶の湯」① 5月21日(土)「日常に生かされる茶の湯」② 6月25日(土)「日常に生かされる茶の湯」③ 7月23日(土)「日常に生かされる茶の湯」④ 8月20日(土)「日常に生かされる茶の湯」⑤ 9月17日(土)「日常に生かされる茶の湯」⑥			
参加費 (6回分) 会員 8,700円 ビジター 11,700円(茶葉代・材料費含む)			

6ヶ月シリーズ講座	伊勢根付づくりに挑戦！	講師 中川 忠峰	国際根付彫刻会伊勢支部長
伊勢みやげとして一世を風靡した「伊勢根付」。これは朝熊黄楊という伊勢にしかない材料に恵まれていたからです。手で撫でているうちに色はあめ色に変化し艶を増し、すべすべ感がなんともいえない癒しをもたらします。刃物の使い方を覚えるためのペンダントトップ作成から始めて、先生の丁寧な指導のもと根付け作成へと進んでいきます。 ※彫刻刀セットをお持ちください、お持ちでない方はご相談ください。			
◇4月～9月(6回講座) 各日 18:30～20:30 定員 15名限定			
4月 8日(金) 5月13日(金) 6月10日(金) 7月 8日(金) 8月19日(金) ※この回のみ第3金曜日 9月 9日(金)			
参加費 (6回分) 会員 10,500円 ビジター 13,500円(材料費含む) ※作品により追加費用をいただく場合があります。			